

国語科 学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校
〇〇 〇〇

1 日時 平成 26 年 11 月〇日

2 学年・組 第 1 学年〇組

3 指導事項

(1) B 書くこと イ

- ・ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) イ (エ)

- ・ 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。

4 単元名 じゅんじょよくかこう

5 言語活動

経験したことを報告する文章を書くこと B (2) イ

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○ 発見したことや感じたことについて友達に知らせたいという思いを膨らませ、経験したことを知らせる文章を書こうとしている。	○ どんな事柄について書くのか、伝えたい内容はどのようなものだったか、その経験を通してどんなことを感じたり考えたりしたかなど、文章の構成を考えて書いている。	○ 長音、拗音、促音、撥音の表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使っている。

7 単元について

○ 児童の状況

本学級の児童の多くは、6月までにひらがなを全て学習してから、文字や短い文を書くことに意欲的に取り組もうとする。6月下旬の「こんなことしたよ」の学習から、行事が終わるごとに「◎おおきなこと、○ちいさなこと、♡おもったこと」という3文で文を視写したり、作文したりしてきた。児童の中に、「◎おおきなこと」はいつ、何をしたのかということを書き、「○ちいさなこと」は詳しいことや自分のことを書き、最後に「♡おもったこと」を書くという大きな構成が定着しつつある。9月に取り組んだ自由作文では、「○小さなこと」を増やして、少し長い作文を初めて原稿用紙に書いた。児童は、徐々に詳しいことや思ったことを自分の言葉で書くことができるようになってきた。10月には「わたしのはっけん」で目や耳などの色々な感覚を使って小動物の様子を文章に書いた。児童は、意欲的にたくさんの出来事を書こうとするあまり、小さな出来事を羅列していくつも書いてしまうようになったので、事柄のつながりを考えて「○小さなこと」を精選するという学習を取り入れた。児童は、だんだんと出来事の手がかりを意識し、文章の構成を考えることができるようになっていく。しかし一方、どのようなことを書けばよいのか言葉が出てこなかったり、「小さなこと」と「おもったこと」を混同したりする児童が3割程度いる。また、入れるとよいカードまで削除してしまう児童も少なくない。

長音、拗音、促音、撥音などの表記は繰り返し学習しているが、完全に正しく作文できる児童は多くない。助詞の「は」、「へ」及び「を」も定着していない児童が約3割いる。会話文の書き方「」は9月「おもいだしてかこう」で学習し、意欲的に書こうとする児童が多いが、中には会話以外の部分でも「」を多用するなど正しく用いることができていない児童もいる。読み返したり友達同士で直し合いをさせたりすることも取り入れながら、意欲を持続させたまま正しい表記ができるよう繰り返し指導したい。

○ 教材の価値

本教材では、経験したことを報告する文章を書くという言語活動を通して、自分がしたことや思ったこと、その時の様子など、構成を意識して書く力をつけることをねらいとする。

書く題材として、生活科「むしとなかよくなるろう」の学習で、校外学習で昆虫館に行ったことを取り上げる。昆虫館では、希望をもとに4つのコースに分かれ、体験学習をする。これを題材にすることは、友達と共通の体験を書くことで、学び合ったり教え合ったりすることがしやすくなることをねらっている。また、同じコースに行っていない友達に教えてあげたいというような、分かりやすく書く必然性が生まれることが、意欲につながると思う。更に、友達の作文を読み合うときに、どのように書いた文章が分かりやすいか、評価が友達から返ってくるという点でも適していると思う。

1年生の児童にとって、このように構成を意識して書くことは初めてであるが、学校生活の安定とともに、より深まりのある学習を行うことで、自分が書けたという喜びや書く楽しさを感じさせ、豊かな文章表現能力の育成を目指していきたい。

○ 指導の工夫

- ・ **自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。**

「順序」とは、概要から詳細へという大きな組み立ての順序と、出来事の時間的な順序とがあるが、ここでは特に、大きな組み立ての順序を取り上げる。

文の組み立てを定着させるために、これまで学習してきた3文の構成「◎大きなこと（概要）、○小さなこと（詳細）、♡おもったこと」に対応する3色のカードを用意し、この構成を意識付ける。「◎大きなこと」は一斉に書き、各自で「○小さなこと」を増やしていくようにする。次時に順序を入れ替えることができるように、1枚のカードに1つの事柄を書かせておく。この時、自分がしたことや昆虫の様子、会話文などの観点を与えてたくさん書き出せるようにしたい。「♡おもったこと」も例を挙げて、児童が書くことができるようにする。

本時では、教師がモデル文を用意し、精選したり順序を入れ替えたりすることで、書いた項目の順序の大切さに目を向けることができるようにしたい。そして、前時に書いたカードが構成メモの内容となるように、カードを貼るワークシートを用意し、貼り替える時間を確保する。カードを精選するときには、基準となるように、よりつながりのあるものを4～6枚選ぶようにさせる。さらに、友達とのかかわりの中で順序を確かめ合ったり、良いところを伝え合ったりする時間も設けたい。

- ・ **長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。**

表記に関しては個人差が大きいので、個別に繰り返し指導に当たる。また、友達と読み合うことで正しい表記に直すことができるようにする。

単元全体を通して、文章をたくさん書くことは楽しいことであるという雰囲気大切に指導していきたい。

8 単元の学習と評価の計画

次	時	学 習 活 動 (評価方法)	観 点		
			国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
一	1	教科書の文例を読み、経験したことを順序よく書くことを知り、学習の見通しをもつ。 (発言, 行動観察)	○		
二	2	文例がどのような順序で書かれているかをとらえ、文章の書き方について理解する。 (発言, 行動観察)			○
	3	伝えたい出来事について、したことや思ったことなどをカードに書き出す。 (カード, 行動観察)		○	
	4	「大きなこと」・「小さなこと」・「おもったこと」とのつながりを考え、順序よくカードを並べる。 【本時】 (ワークシート, 行動観察, 発言)		○	
	5 6	カードをもとに、順序を考えて文章を書く。 (ノート, 行動観察)		○	
	7	書いた文章を読み返し、修正する。 (ワークシート, ノート, 行動観察)		○	
三	8	友達と文章を読み合い、良いところを見つけて伝え合う。 (行動観察, ノート)	○		

9 本時の目標（書く能力 第二次 4時）

伝えたい出来事について、「大きなこと」・「小さなこと」・「おもったこと」とのつながりを考え、順序よくカードを並べることができる。

10 本時の学習展開（書く能力 第二次 4時）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
1 本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真を提示し、先日の昆虫館見学の自分のコースについて、友達に分かりやすい文章を書いて伝えることを確認する。 ○ モデル文を用意して不自然さを感じさせることにより、つながりや順序よく書くことの大切さが分かるようにする。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> つながりを かんがえて カードをえらび、 じゅんじょよく はろう。 </div>		

<p>2 モデル文の、思ったこととのつながりや、カードの順序を考えて話し合う。</p> <p>3 自分が書いたカードを読み返し、つながりや文章に書く順序を考えて並び替え、ワークシートに貼る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>◎大きなこと →水色 ○小さなこと →黄色 ♡おもったこと →桃色</p> </div> <p>4 ペアで読み合い、順序を確かめ合う。</p> <p>5 全体で確認する。</p> <p>6 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外した方がよいカードについては、その理由を明確にし、思ったことと小さなことにつながるかどうか確認する。 ○ 順序については、分かりやすい順序になっているか確認する。 ○ ノートに貼っている3色のカードを貼るワークシートを用意し、貼り替えることにより、自分の文章のつながりや順序を考えることができるようにする。 ○ 「小さなこと」を精選する基準となるように、よりつながりのあるものを4～6枚選ぶように指示する。 <p>C 評価が予想される児童への手立て：</p> <p>つながりを考えて貼ることが困難な児童には、個別に思ったことを聞き、どれが繋がっているか選ぶことができるよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ つながりを考えた上で書き直したい希望があれば、書き直すことができるように黄色と桃色のカードを用意しておく。 ○ 自分や友達のカードの順序が確認できるよう、ペア対話の時間を設定する。 ○ 友達のよいと思うカードにサイドラインを引いたり、質問やアドバイスをし合ったりしてかかわることができるようにする。 ○ 発表の際は、全体に聞いてみたいところがあれば、それを優先して取り上げ、全体で話し合う。 ○ つながりや順序はよいか確認する。 ○ 分かりやすい文章を書くために順序の大切さを強調し、児童の活動へ肯定的な評価をする。 	<p>A : 「大きなこと」→ 「小さなこと」→ 「おもったこと」 のつながりを考え、より関連性の高いカードを選んで順序よくカードを並べている。</p> <p>B : 「大きなこと」→ 「小さなこと」→ 「おもったこと」 のつながりを考えて順序よくカードを並べている。 (カード、ワークシート)</p>
---	---	---